

今年の夏は、異例の暑さでしたね。10月に入っても「今日は、水遊びしないの？」と子ども達から声が出る程水遊びを満喫した夏でした。その暑さもようやくひと段落し、季節の移り変わりを感じる季節になりました。

園庭にドングリの木があり、雨上がり後はドングリがたくさん落ちているので、子ども達は、ドングリ探しに夢中です。子ども同士で手を繋いで探す子やカサだけを集める子もいます。

数日後、みんなで集めたドングリを砂場に置いてみると、始めはドングリを集めるだけで満足していたのですが、暫くすると一人の子が砂の山にドングリを並べ始めました。すると他の子も興味を示し、真似をして一緒にドングリを綺麗に並べ「ドングリの山だね」「ドングリケーキ」等やり取りをしながら楽しんでいました。

子ども同士関わりを持ちながら遊ぶ子がいる一方、一人黙々と遊ぶ子もいます。様子を伺うとドングリを持つ手に気持ちを集中させ、砂の上にドングリを立てようとしています。私達もそっと遠くの方から見守ります。何度倒れても諦めず、成功すると、一瞬目を輝かせましたが、またすぐに真剣な表情に戻り、次のドングリを立てていました。集中力の高さに感心した一場面でした。

暫く子ども達が思い思いにドングリで遊んでいると「虫がいる！」と大きな声。その声に子ども達が近寄ってきます。見てみるとドングリに小さな芋虫が付いています。「ドングリに芋虫がいる事もあるんだよ」と伝えると驚きながらも「芋虫がいるドングリってどうやったら分かるの？」と疑問の声。「ドングリに穴が開いていたらいるかも知れないよ」と話すと皆真剣にドングリを見つめ、穴がないか探しています。「虫！」という声に反応して近づいてきた1歳児も『こう？』と真似をしてドングリを見ている。更に「ドングリの殻を剥いてみると芋虫が出てくるかも」と伝えると、一斉にドングリの殻剥きが始まりました。殻を剥いてピーナッツのような物が出てくると芋虫はいない、土のような物が出てくるといっても知れないと話すと、子ども達は「このドングリはどっち？」とドキドキしながら剥いています。黒い土が出てくると、中身を全部出して確認します。皆怖い物見たさでその様子を覗き込みます。その中に芋虫を見つけると「いた！」と大喜びする子や驚いて逃げる子も…。しかしその後は、じっくり芋虫を観察していました。その日は、ドングリで夢中になって遊んだ1日となりました。

9月に入ってから夕方の自由遊び前に、2歳児に向けて洋服の前後に気を付けて着るように声を掛けています。

上着の首元やズボンの前後をひっくり返し、タグや文字があると前後逆という事を教えています。ズボンに関しては、前側と後ろ側でポケットの形が異なる事も一緒に伝えています。

最初の頃は、私達が一人ひとり「合ってるかな？」「(タグ)が付いていないかな？」と確認していましたが、最近上着に関しては、着替えた直後に自分で首元をひっくり返して確認したり、上着の柄が前側になくて気付く子も増えてきました。

1歳児は、私達が2歳児に話をしている間「何をしているのだろう？」とじっと様子を見ていましたが、数日経つと自分の上着やズボンを触り、更に数日経つと上着の首元をひっくり返し「何かあるのかな？」と不思議そうにしている姿が見られるようになりました。

10月になると、2歳児と一緒に上着をひっくり返し「ないよ」「あった」とタグの有無を伝えに来たり「反対」と言いながら自ら前後を直そうとする子もいます。また2歳児が、1歳児の上着やズボンを確認して「反対だよ」と教えたり、前後を直す手伝いをする姿も見られます。その様子を見て微笑ましく思うと同時に、縦割り保育の良さも感じられました。